

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームでの生活が安心できる毎日であり、生き生きとした暮らしを継続できる支援を謳った理念としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やユニット会議で理念について日頃から意識するようにしている。より良いサービス提供について取り組めるように全職員で確認している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には面会時や行事開催時、また、ホーム便りをおして理念を理解してもらえるようにしている。地域の方々にも運営推進会議や日常的な付き合いの中で、グループホームの取り組みを紹介し、理解を深めてもらえるように働きかけている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶や声をかけ合うことができている。ホーム前が通学路にもなっており、子供達とも挨拶ができている。畑や庭の作業中でもアドバイスをもらったり、手伝ってもらおう事もある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や地域の回覧などを活用し、できるだけ地域活動に参加している。小学校や保育園、町内行事にて地域の方々と交流を持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の住民としてできる事を話し合い、散歩に出かけるときはビニール袋を持ち、落ちているごみを拾いながら歩いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全員で確認し、自己評価に取り組んだ。外部評価機関主催の説明研修会にも参加している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。活動内容の報告やグループホームの取り組みを説明し、質問や意見、要望等をもとに話し合いを行っている。意見や要望についてはできるだけすぐに取り組めるように、職員全員に周知している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、見附市地域包括支援センターの担当職員に経過を報告したり、見附市地域包括ケア会議に参加している。グループホームの取り組みを理解してもらい、サービスの質向上について検討している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業に関する制度が必要なケースはないが、勉強会は行っている。		職員全員がしっかり理解できるように、また、必要な時に支援できるように定期的に勉強会を行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての施設内研修に参加している。また、日頃から高齢者虐待防止法について意識できるようミーティングやユニット会議等で話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>今年度において解約や新たな契約はない。契約時から約2年経過している事から、契約内容について質問等あればその都度説明し、理解してもらっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や行動などから、意見や要望を察する事ができるように努力している。ユニット内で利用者の思いや意見を汲み取れるよう話し合いを行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りを発行して、ホームの様子を家族へ伝えていく。健康状態や金銭の使用、日頃の様子など電話連絡を行ったり、面会時には細かく報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等から意見や思いを聞きやすいように面会時など積極的に声をかけるようにしている。会話の中で聞くことができた意見はユニット会議等で話し合っ、すぐに対応している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議やミーティングの場で、職員の意見や要望を聞くようにしている。管理者だけでなく、ユニットリーダーからも職員全員とコミュニケーションをとり、意見を取り入れられるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化等に対応できるよう、勤務の調整を行っている。急な場合でもすぐに職員間で話し合いを持ち、対応できるようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員全員が馴染みの関係が重要であることを理解している。離職や異動などやむをえない場合については、しっかり引き継ぎを行い、利用者へのケアが途切れる事のないように気をつけている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>グループホーム独自のものを作り、マニュアル整備を行っている。随時、見直しを行い、ユニット会議等で周知している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は研修会の計画を立て、毎月開催し、職員はできるだけ参加している。法人内の研修の機会についても全職員がいずれかに参加できるようにし、レベルアップを図っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新潟県のグループホーム協議会に参加し、勉強会に参加するようにしている。管理者は近隣の事業所やケアマネジャーと連絡を取り合いネットワーク作りをしている。</p>	<p>グループホームだけでなく他の事業所との交流を持ち、サービスの質向上に努めたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は全職員と話をすることは多くないが、安全衛生委員会を設置し、法人全体で改善に向け取り組みを行っている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は各職員の自己評価表を確認している。グループホームにおいては各自が目標を設定し、目標達成に向けて取り組んでいることを把握している。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用の相談があった際は、一番困っていること、本人が不安に思うことなどをよく聴き、できるだけたくさん話が聴けるようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>思っていること、困っていること、わからないことなど、家族が納得できるまでよく話を聴き、その思いを受け止めるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、本人や家族の状況を確認し、支援方法やサービスの種類など理解してもらえるように説明し、必要なサービスにつなげている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた際に見学してもらったり、家族と一緒にきてもらい実際に一緒に過ごす時間を持ったり、利用しやすいように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームで生活を共にし、同じ時間を過ごしている事を忘れないようにしている。互いに協力し合い、声を掛け合っていけるように努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添い、毎日の様子や状況を面会時や家族会の場において伝えている。家族と一緒に本人を支えていくという関係が築かれてきている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や、話を聞くことができるその都度、日頃の様子を報告している。また、折にふれこれまでの家族との関係や以前の様子などを教えてもらい、一緒に理解できるような機会を作っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの友人、知人との関係が途切れないように、いつでも訪問してもらえるように声をかけている。新たな馴染みの方でもできたため、地域の集まりにも参加している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員全員が利用者同士の関係性を把握し、利用者間のかかわり合いについても情報を共有している。日々の支援について充分配慮できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで契約終了となった方はいない。今後サービス利用が終了となった場合も本人や家族との関係性を大切にできるように努めたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの会話や表情などから思いを汲み取り、希望や意向を把握している。時には家族から生活や暮らしの意向を確認し、常に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から聞いた以前の暮らしや生活状況などを生活歴として記録している。職員全員が情報を共有し、毎日のケアに活かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、本人の持っている力をより活かせるように、また、楽しみが増えていくように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と一緒に介護計画を作成していく事を大切に、職員全員でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの状態に応じて定期的に介護計画の見直しを行っている。変化が生じた場合も本人および家族と話し合い、介護計画を見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を残し、職員全員が周知して情報の共有をしっかりと行っている。ユニット会議やミーティングで日々のケアの結果や介護計画の見直しを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々状況や要望などに応じ、定期受診や緊急的な受診の援助を行っている。また、地域の行事参加など要望により外出の支援をできるだけ柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺の地域資源をできるだけ活用し、協力していけるよう取り組んでいる。地域の公民館や小学校など連絡を取り、必要に応じて働きかけを行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向や必要性に応じて、見附市運営の「シルバー団らん室」への参加を援助したり、訪問理美容の利用を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や地域包括ケア会議への参加によってグループホームの現状を理解してもらっている。必要に応じて相談する場合もあり、協働できるようにしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりが以前からのかかりつけ医へ受診を継続している。状態の変化に応じて受診の援助を行っており、受診前に状況説明をするなど医療機関との適切な連絡を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居後、認知症の進行や状態の変化に伴い、専門医への受診を行っている。診断を受け今後の適切なケアについて相談や援助をもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養看護師が担当となり、グループホーム利用者の毎日の健康状態や体調変化など細かく報告し、常に情報を共有する事で連携を取っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族や、病院の医療相談員と連絡をとり、入院中の様子や回復の状況、退院後のケアなど情報交換や相談を行うようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と重度化や終末期について話し合う機会を持っている。本人や家族の思いを確認し、これからのことを意思確認書として記録している。かかりつけ医とも話し合い、医師から確認してもらう事もある。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケアプランの見直し、状態変化の見られる都度、チームとしてどうすべきか支援について話し合っている。今後もケアについてかかりつけ医と連携が取れるように連絡をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境が変わることで受けるダメージについてよく理解し、できるだけこれまでの暮らしを継続していけるよう取り組んでいる。ご家族との情報交換も細かく行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの尊厳を大切に、会話の内容や口調に気を付けている。記録等は個人ファイルに管理し、プライバシーを損ねることの無い対応を徹底している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者それぞれの希望を聞き、本人の希望に合うよう、自分で選択して決める事ができるよう働きかけている。できるだけ自己決定ができる支援を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の体調や気分、希望に合わせて外出や買い物、散歩等に出かけている。趣味活動ややりたい事の作業等についても、その人のペースで行ってもらえるようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎日本人の好みの服を選んでもらっている。散髪についてはそれぞれの希望や行き付けの理美容院に行けるように支援している。化粧やおしゃれも一人ひとりの生活習慣に合わせて支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と一緒に食事の準備や調理、配膳や後片付けなど行っている。利用者の好みや希望も取り入れ、畑で収穫した野菜を利用するなど、食事作りを楽しんで行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりが楽しめるように個人の好みや状況に合わせている。コーヒーやお茶などいつでも楽しめるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。失敗をしてしまっても、本人が傷つかないように周囲に配慮したり、できるだけ本人が自分でできるように援助している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や生活習慣に合わせて入浴してもらっている。毎日入浴したい方、仲良しと一緒に入る方、入浴日を自分で決めている方など、一人ひとりが楽しめるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促し、夜間は安眠できるように働きかけている。寝る時間も一人ひとりの生活習慣やその日の活動状況などを確認して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの思いや気持ちを大切に、持っている力を発揮し、楽しみながらできるように支援している。畑や食事作り、掃除やカラオケなど張り合いを持てるように援助している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事、お金を使う事の大切さを理解し、利用者の希望や力に合わせて援助している。買物に行き、お金を支払うこと、おつりを確かめることなど支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や、その日の気分に応じて戸外へ出かけている。日常的な散歩や買物、季節に合わせてお弁当持参のドライブなどへ出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたい、見てみたいと思う場所にできるだけ行けるように支援している。市内の市民交流センターや行ったことの無い店など希望を聞けるように働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人、友人からの電話や手紙を受けられるようにしている。会話や手紙の内容が周囲に漏れることの内容配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人等が都合の良い時間にいつでも来てもらえるように配慮している。ゆっくり過ごせるよう希望に合わせて、フロアのスペースを使用していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する法人内研修に参加し、事業所内でも勉強会を行っている。全職員が身体拘束をしないケアについて理解し、実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。利用者の外出はできるだけ要望に合わせ、職員と一緒に付き添って出かけられるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりのプライバシーに気を配り、所在や様子を確認している。夜間は安眠を妨げないように巡回し、日中、居室で過ごしている場合でも、適宜声を掛けてたり、様子をうかがったりしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて、使いやすいようにしている。職員が見守りを行い、ポットや裁縫箱など自由に使えるようにしている。夜間は薬、包丁等を施錠して保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリハット」「事故」の報告について全てミーティングの場で再度検証し、改善策への検討を行っている。一人ひとりの状態に応じた危機予測ができるように、改善策の実施状況についても共通意識が持てるように話し合いを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師や消防署職員の指導によって、応急手当や心肺蘇生について研修を受け、急変時等に対応できるようにしている。ホーム内でも定期的に勉強会を行うようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを基に消防署の協力を得て、利用者とともに避難訓練を行っている。定期的に消火器、避難経路の点検を行っている。		消火器や避難経路の点検だけでなく、実際に起きた場合を想定して、消火器の取り扱いや通報、避難の手順などの訓練も行っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時や状況の変化の都度、一人ひとりに起こり得るリスクについて家族に説明を行っている。利用者の持っている力を発揮できる援助を理解していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の普段の健康状態を把握している。体調や様子の変化が見られたときには管理者、看護師、職員全員で情報を共有し、状況によっては家族、主治医へ連絡し、医療機関への受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬剤情報提供書を保管し、職員が随時確認できるように整理している。服薬時には利用者の状況に合わせて与薬し、服用の確認を行っている。処方の変更が合った場合は、職員、看護、全員で周知徹底し、様子の確認を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常的に散歩や体操、家事活動など適度な運動ができるように働きかけを行っている。便秘がちな方へは随時腹部マッサージを行い、スムーズな排便が見られるように支援している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を全職員が理解している。利用者一人ひとりの力に応じて、声掛けや見守り、または介助している。義歯洗浄も毎食後行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を把握し、体重の増減と合わせて状態の変化に対応している。必要に応じて食事内容を工夫している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して、マニュアルを基に予防対策に努めている。うがい、手洗いの効果を理解し、利用者や家族ともに徹底している。近隣で発生している感染症についても全職員で情報を共有し、注意している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を使用するため、1日おきに買物に行っている。国内産の食材を購入し、できるだけ使いきり、冷凍保存も最小限にしている。キッチン、調理器具、冷蔵庫は定期的に点検、清掃をしており、ふきん、台ふきんは毎食毎に取り替えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるよう、下駄箱の上に季節の花を生けたり、玄関先にはプランターを置いている。庭には花が数多く植えてあり、立ち寄りやすい雰囲気になっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの飾りつけは季節に合ったものを意識的に取り入れている。季節感だけでなく地元風習を取り入れた装飾をして、居心地の良い空間作りを工夫するようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアに椅子やテーブルを置き、一人で過ごしたり、仲良く同士でテレビを見たり、本を読んだりしている。それぞれ思うように過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが自分でまたは家族が選んだ暖簾を居室入り口にかけたり、使いやすいように衣類をラックに掛けたり、使い慣れたものを持ち込むなどして、居心地良く過ごせるよう本人と相談し援助している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペースは時間を決めて換気しており、利用者の体調に注意して温度調節を行っている。湿度は特に注意し、常に湿度計を確認しながら、加湿器や噴霧などで乾燥を防いでいる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が作業しやすいように高さを考えた物干しを使用したり、ベッドの高さを調節したり、一人一人に合わせて対応している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室やトイレ、カレンダーなどわかりやすいように表示している。また、一人ひとりの好む表札を自分で選んだり作ったりして、居室前に取りつけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇を作り好きな花を植えたり、畑で野菜を作ったり、屋外で活動できる環境を整えている。また、日向ぼっこや涼んだりできるようベンチを置き、花や作物の生長を楽しめるように支援している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に添ったケアを日頃から意識し、利用者もスタッフも楽しく笑って過ごせる時間を大切にしている。また、スタッフ全員がケアプランをよく確認し、適切なサービス提供ができるように取り組んでいる。